

お母さんの携帯電話

小学校 五年 み三田 たい泰雅

今年の夏休み

ぼくはお母さんにめっちゃおこられた
おこられている途中で

携帯電話が

「プルプルプル…」

と鳴った

携帯電話を耳に当てたお母さん

そのとたん

「ハイ 三田です。」

よそ行きの声

急に変わったテンション

ぼくは

「ありがとう。お母さんの友達。」

と心の中で思った

電話が終わると

静かにご飯を作り出したお母さん

ぼくが

「今日のご飯は？」

と聞くと

「ハンバーグ。」

と優しく答えてくれた

あれ？きげんが直ったみたい

携帯電話一つで

こんなに変わるなんてすごすぎる

これからもタイミングよく鳴ってくれよ

お母さんの携帯電話